



ガバナー月信

Governor's Monthly Letter

2025-2026 年度 ガバナーメッセージ 「ロータリアンからはじめましょう」

「青少年奉仕月間です！」

国際ロータリー第 2620 地区 2025-26 年度ガバナー
稲葉 雅之 (伊東西 RC)

「勝沼のブドウ」が瑞々しい若葉を広げ、静岡では「八十八夜の新茶」が芳醇な香りを漂わせ、浜松まつりの大凧が五月の青空に舞い上がるように、生命力に満ちた季節がやってまいりました。

次世代を担う若者たちが、その志を高く掲げる「青少年奉仕月間」の幕開けです。

ロータリアンの皆様、こんにちは。

今月、私たちが推進する主要な三つのプログラムについて、その歩みを振り返ってみましょう。

青少年交換は、1920 年代「二度と戦争の悲劇を繰り返さない」という願いから欧州で始まりました。一人の若者が海を渡ることは、単なる留学ではなく、「草の根の外交官」として世界平和の礎を築く旅に他なりません。

インターアクトは、1962 年～米国フロリダ州で誕生。冷戦下の混迷する世界で、高校生世代に「国際理解と奉仕」の精神を植え付けるべく創設されました。若さゆえの純粋な行動力が、地域社会を変える力を持っています。

ローターアクトは、社会が劇的に変化した 1960 年代後半、青年男女のリーダーシップ開発を目的に誕生。現在は「ロータリーのパートナー」へと格上げされ、「共創 (Co-creation)」を象徴する存在となっています。

苗木が巨木となるためにかつてレオナルド・ダ・ヴィンチは「鉄は使用せずして錆び、水は淀むと腐りまたは寒中に凍るように、才能 (知性・行動) も用いずしては損なわれる。」という言葉を残しました。

異文化に揉まれ、奉仕の喜びを知り、社会を動かす術を学ぶ。ロータリーの青少年奉仕とは、指導力養成や奉仕プロジェクト、そして交換プログラムを通じて、「若者たちの手によって、世界に好ましい変化をもたらされること」を心から信じ、認識するプロセスです。

ミャンマーの無医村地域ミャウンミャで、村々を巡回しながら医療と菜園活動に尽力されている日本人医師名知仁子 (なちさとこ) さんから、以前お話を伺いました。

(次ページへ続く)



ロータリープログラム委員会 青少年交換小委員会

(前ページより続き)

彼女は「活動には現地の若者たちとの信頼関係構築が肝心」と語ります。貧困や疾病、暴力の影が差す場所であっても、大人が若者を信じ共に汗を流すことで、彼らの自立を支援することにもなります。

自立ができると、彼らはやがて国際奉仕や世界平和を担う側へと成長するかもしれません。

このように世界の至る所で、色々な人により、青少年育成の基礎段階が行われているといえます。不確実な「VUCA」の時代、デジタルネイティブであり多様性を呼吸するように受け入れる Z 世代の若者たちは、私たちが長年かけて学んできた「奉仕の理念」を、新しい感性で世界へ広げる力を持っています。

「若者は未来のリーダーではない。『今』のリーダーである」

この視点の転換こそが、今月の私たちのテーマです。彼らを「指導の対象」として見るのではなく、「逆メンター（世代を超えた学び）の対象」として、更に、共に社会を変える「並走者（パートナー）」として迎え入れようではありませんか。

5月の風は、新しい種を遠くまで運びます。

皆様のクラブが、地域の若者たちにとって「挑戦できる港」となり、彼らが自信を持って大海原へ漕ぎ出せるよう、共にエールを送りましょう。

「奉仕」という名のタスキを、最高の笑顔で次世代へ。



青少年交換小委員会活動

青少年交換小委員会は3月21日、「故郷づくり推進活動受入学生第二の故郷づくり支援事業」を、山梨県甲府市エリアを中心に開催＝写真左。天候に恵まれた一日でした。甲府南 RC ご関係者の皆様に多大なご協力をいただきました。また、3月28日には静岡県藤枝市を中心に同事業を行い、藤枝南 RC のご関係者の皆様に大きなお力添えをいただきました＝写真右。



2027-2028 年度ロータリー青少年交換長期派遣候補学生募集説明会を4月11日、静岡商工会議所で開きました。甲府・静岡・静岡西・富士宮・浜松南の5RCが参加しました。募集要項の冊子を元に、事業や申し込みに必要な書類の説明を行いました。質疑応答では、活発な意見交換が行われました。



2026学年度米山記念奨学生世話クラブ・カウンセラーオリエンテーション&対面式

2026学年度米山記念奨学生世話クラブ・カウンセラーオリエンテーションおよび対面式を4月5日、静岡市のグランディエールブuketーカイで行いました。世話クラブ会長、カウンセラーと奨学生に対し、別々にオリエンテーションを実施した後、対面式を行いました。



『エンドポリオサイクリングチャレンジ浜松～東京 280km』のご紹介

来る6月5日に中村皇積パストガバナーがエンドポリオに向けたチャレンジイベントを開催されます。詳しい情報は右のQRコードを読み込んでください。下記は、中村PGのコメントです。



国際ロータリー第2620地区ロータリー財団委員長中村皇積です。
2026年6月5日に私が住む浜松から東京まで約280kmをロードバイクで目指します。

困難な道のりでも必ず成し遂げる、ロータリーのエンドポリオへの取り組みを自分に重ね合わせながら完走したいと思います。

第2750地区パストガバナー宮崎陽市郎さんと一緒に走ります。

皆さまのご寄付はポリオプラス基金を通じてポリオワクチンとなり、世界の子どもたちに届きます（ロータリー会員の方はご本人の寄付実績となります）。

ポリオ根絶へのゴールは見えています。皆さまと分かち合いたく、どうかご協力をお願い申し上げます。



中村PGも書いておりますが、今回のご寄付は、チャレンジイベント実施に対する寄付ではなく、あくまで**皆さんのポリオプラス基金への寄付実績となります**。ご寄付は、マイロータリーログイン後「参加する」「Raise for Rotary」にて koseki と検索の上、イベントページにて『**Donate now**』ボタンをクリックしてください。

イベントの無事の開催、ご健康を心よりお祈りしております！

END POLIO Cycling Challenge From Hamamatsu to Tokyo! エンドポリオサイクリングチャレンジ浜松～東京280km

KOSEKI NAKAMURA

Support my fundraiser

JPY **662,400**
of JPY 262,000 raised
253% 61 remaining days

Donate now

Share fundraiser

Donating by check?



クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナーを開催

クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナーを4月26日、ツインメッセ静岡で開きました。コロナ禍により、2018-19年度の下期に対面で開かれたのが最後で、実に7年振りの対面開催となりました。

本会議で若林秀典ガバナーエレクトが次年度方針の説明を行った後、次期地区ラーニング委員長の小泉久司パストガバナーはご挨拶をされる中で、ポール・ハリス・ソサエティ・コーディネーターを務められていらっしゃるため、若林ガバナーエレクトへ表彰状を手渡しました。1時間の各分科会では、次期地区委員会の各委員長がリードの上、クラブの皆様へ次年度の事業説明や質疑応答を受け付けたほか、RLI部会ではグループ分けをしたRLI方式でのセッションを行うなど、新会員の皆様にも刺激になったと思います。対面開催ならではの臨場感とご参加された皆様の熱意を感じることができました。なお、ポリオプラス小委員会のブースで行ったポリオ募金は、72,681円でした。



令和7年青森県東方沖地震支援金について

ガバナー会を通して、国際ロータリー第2830地区から「令和7年青森県東方沖地震支援金」への協力要請が届き、クラブへお知らせいたしました。支援金は、5月22日（金）までRID2620ガバナー事務所で受け付けております。引き続き、ご協力いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



2027年国際大会開催地はスペイン・バルセロナに変更

2027年国際大会は、2027年5月22日～26日にドバイで開催される予定でしたが、スペインのバルセロナが2027年ロータリー国際大会の開催地として新たに選ばれ、2027年6月26日～30日にフィラ・デ・バルセロナで開催されることが決まりました。

